



お陰さま



支部長 荒木友梅

支部長として拜命を受けて一期二年が過ぎようとしています。早いものでアツと言う間でしたが、もう一期頑張つて職責を果たそうと思います。

今年度の支部展は例年通り七月の暑い時期に行ないました。展覧会などのイベントは、本番の会期中は華やかで楽しいものですが、やはりその陰には常に骨をおつて汗を流す多くの担当者がいます。支部長はそんなイベントの中央に立つてリードすることになりますが、厳に多くの人のお陰で成り立っていることを忘れずに今後も進みたいと思います。

さて、今年度の支部展は通常の書作品に加えて、二月の講習会で制作した「わんぱう」を使った半紙作品を展示しました。わんぱうとは昔の所謂ろうつ染めと似ていますが、それよりももっと手軽に楽しめ、バリエーションも多くアイディアが膨らむところが利点であると感じました。彩色することで書の白黒の世界から、カラフルな作品に転じます。そんな作品の前では「どうやって色を付けるの？」などと観覧者との会話が生まれ、書の世界へ誘う効果は抜群であったと思います。

ところで、本支部では近年、講習会で制作した作品を支部展で発表しています。二つのイベントを関連づけることで、出品者の創造性を刺激するねらいがあります。是非二月の講習会も楽しみにして、多くのご参加をお願い致します。

『書ける幸せ』
支部次長 竹内清泉

書道家にとって「書く」という行為は、単なる技術の発揮や作品制作にとどまらないと思っています。筆を握り、墨を紙に落とす瞬間、その一筆一筆に心を込めることができず。それは、心の中にある思いや情熱を形にする行為であり、自分自身と向き合う時間でもあります。書道家が作品を書けるということは、その心を表現できる自由を持つことであり、それが何にも代えがたい幸せです。

また、書道は自分自身の内面と深く向き合う手段でもあります。筆を運ぶ際、無心になつて集中する時間は、心を整え、雑念を払いのける貴重

なひとときです。その過程で、自分の未熟さや迷いとも向き合うことが求められますが、それこそが成長の糧となると考えております。そして、自分の心が落ち着き、純粹な気持ちで書いた作品は、その分だけ真実味を持ちます。書道家が「書く」という行為を通じて、自分自身を見つめ直し、心を磨いていけることもまた、幸せと言えます。

さらに、書道は人とのつながりを生みます。自分の作品が誰かの目に触れ、心に響くことで、その人との間に特別な交流が生まれます。書道教室で生徒に教える際にも、書を通じて相手の成長を助ける喜びを感じることができると思います。そのような「文字でつながる」体験は、書道家に

私には現在三尺×八尺の作品を制作する機会を与えて頂き、挑戦しています。ただ文字を形にするだけではなく墨量や筆圧などにも気を配り、気力、体力、精神力すべてを鍛えています。以前までは二尺×八尺の作品でした。より大きい紙に「書」を表現できることは私にとって良いステップアップになっていきます。一筆一筆に込める思いが、自分の心を豊かにしてくれています。そして、そのすべての過程にこそ、書く幸せがあると感じています。書ける喜びを知る者として、これからもその幸せを追い求め、伝え続けていきたいと思ひます。

発行所

公益社団法人
中部日本書道会北勢支部
〒510-8027 四日市市茂福544
荒木友梅
.....
題字 加藤子華

2025年度の事業予定

支部展	第38回北勢支部展	
	会場	四日市市文化会館 (第一展示室C・D)
	日時	7月11日(金)～13日(日)
講演会	講師	林 朝子(俊慧)先生
	会場	四日市市文化会館 (第三ホール)
	日時	7月13日(日) 14:00～ (13:30から支部集会)
研修会	研修先	京セラ美術館・曼殊院など
	日時	11月9日(日)
講習会	会場	じばさん三重 (近鉄四日市駅前)
	日時	令和8年2月予定
	講習内容	未定
会報	第15号	令和8年3月発行予定

※詳細は別途案内します。
会員外の方も参加できます。